

【姫路の道の駅】 ど〜なっとお？

みんなで
もりあげて
いこう！

ど〜なっとお？第2号でもお知らせしましたが、「(仮称)道の駅姫路」基本計画(案)について、令和3年12月24日～令和4年1月24日までの約1か月間、パブリック・コメントを募集しました。この期間中、たくさんの方から基本計画(案)に対するご意見や道の駅への期待をお寄せいただき大変ありがとうございました。パブリック・コメントの結果は、現在とりまとめ作業をしておりますので、まとめ次第、みなさんに公開させていただきます。

今回はみなさんの **疑問** や **質問** にお答えします。

今回はパブリック・コメントとは別に、これまでにみなさんからいただいたご意見・ご質問の一部をご紹介します、姫路市としての考えをお答えしたいと思います。



行政がやって面白い道の駅になるの？

誰が運営するの？

誰がお金を出すの？

2. どうして官民連携で整備するの？



少子化なのに
なんでこどもがターゲットなの？

姫路ってこどもが遊べる所少ないよね？

もっと姫路域に近い場所のほうが良いのでは？

1. こどもが楽しめるってどんな道の駅？

市内の西の方が良かったのでは？

3. どうして今の予定地に決まったの？

広すぎない？

おじいちゃんおばちゃんもこどももみんな楽しいの？

道の駅って大人が買物するところじゃないの？

山陽姫路東ICの方が便利では？

なんであの場所なの？

市長の地元だからでは？

狭くない？



その疑問・質問にお答えします！裏面へGo！



みなさんの

疑問・質問に



お答えします!

1. **子どもが楽しめるってどんな道の駅?**



みなさんの想像する道の駅は、大人が農産物を買ったり、お土産を買ったり、はたまた美味しいご当地料理を食べたり…

でもこれが楽しいのって大人だけ?!

姫路には子どもの遊べる場所が少ないとの声を以前からいただいていたこともあり、子どもが思いっきり楽しめる場所を作りたい!そんな思いで子どもが楽しめる道の駅というコンセプトを考え

ています。もちろん、お父さんもお母さんも、おじいちゃんもおばあちゃんも楽しめる場所にします!みんなで遊びにきてください!

広い芝生があって、子どもが安心して走り回れて、毎週なにかイベントをやってで…子どもが道の駅行きたい!と言ってもらえるような道の駅を考えていきます。



道の駅のような楽しい場所を考えるのが得意なプロの方々があります。

買いたくなる商品、食べたくなるメニュー、行きたくなるイベントなどのソフト面のこと、歩きやすい店内レイアウト、入退場しやすい駐車場、管理しやすいバックヤードのつくりなどのハード面のことについても市が持っていないノウハウです。

今回の姫路での道の駅は、こうしたノウハウを活かせるように市と民間事業者が一緒に考えて、作っていくことで

より良い道の駅にしたいと考えています。

(これを官民連携と言います。)

民間事業者の方々には、知恵を貸してもらっただけでなく、しっかりと稼いでももらいたいと思っています。みなさんにとってよいサービスを提供してもらい、そのサービスに値する対価も得てもらい。そうすることで、道の駅をずっと楽しい場所にしていくことができます。みんながニコニコしてられる道の駅にしたいと考えています。



2. **どうして官民連携で整備するの?**



3. **どうして今の予定地に決まったの?**



予定地は、H28年度とR2年度の2度の検討で地域を絞り込み、R3年度に必要な大きさを計算して、今の場所、大きさに決めました!

予定地のある谷外地区は、丹波道、但馬道、有馬道という街道が交わる交通の要として栄えていた歴史をもっており、それはまさしく道の駅の役割と同じなのです!運命を感じますね。また、市の東から観光に来られる方が多いのも

決め手でした。今回の道の駅は姫路城に負けず、別の集客核を作る、という思いで、まちなかから少し東に離れた場所に整備することに決めました。道の駅から姫路市内はもとより、播磨一円、いろいろな場所に行っていただけるような情報発信を行い、姫路・播磨の観光のゲートウェイにしたいと考えています。そのための場所として最適な場所と確信しています!

予定地

谷外地区のよいところ

姫路市のホームページでは予定地がある谷外地区のお宝を紹介しています。



是非、QRコードから谷外地区を調べてくださいな。



姫路市産業局道の駅推進室室長 森 健

これからも写真のようにニコニコしながら、真剣に考えていきたいと思っています。

【姫路の道の駅】 どーなっとお?

姫路市道の駅推進室の森です。姫路市として道の駅整備は初の試みですので、職員も試行錯誤しながらも、みなさんに喜んでもらえるような道の駅を作りたい!という思いで日々取り組んでいます。

